

平成25年度

— 第16回（定例・臨時） —

教育委員会会議録

開 会	平成26年 1月30日	午前 午後	2時30分			
閉 会	平成26年 1月30日	午前 午後	3時50分			
会議場所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	松村佳子	出
	森本哲次	出	藤井宣夫	出	富岡將人	出
議事録署名	教 育 委 員 長					
委 員	教育委員長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議 案 及 び 議 事 内 容	結 果
<p>次 第</p> <p>報告事項 1 平成26年度学校教育の指導の重点について</p>	<p>承 認</p>
<p>○花山院委員長「ただ今から、平成25年度第16回定例教育委員会を開催いたします。本日は、委員全員出席しており、定足数を満たし委員会は成立しておりますので、これより委員会を開催いたします。」</p>	
<p>報告事項 1 平成26年度学校教育の指導の重点について</p>	
<p>○花山院委員長「それでは、報告事項 1 『平成26年度学校教育の指導の重点』について報告願います。」</p> <p>○教育長「『奈良県学校教育の指導方針』に基づき、本県教育が重点的に年度ごとに取り組むべき内容について『平成26年度学校教育の指導の重点』を作成いたしました。概要につきまして、学校教育課長よりご報告いたします。」</p> <p>○学校教育課長「先に平成21年1月に奈良県の教育の中長期的な方針としまして『奈良県学校教育の指導方針』を、新学習指導要領に対応して作成しております。それを踏まえ、その時々々の教育課題に対応するために毎年改訂して出しているものが、『平成26年度学校教育の指導の重点』です。重点的に取り組むべき課題、園・学校での具体的な取組内容、県教育委員会が進める事業内容等を掲載しております。まず、奈良県教育委員会のスローガンを示しています。『愛を基盤として、知力・体力・忍耐力を身に付つけて、正々堂々と生きる子どもを育てるために…』これは従来どおりです。次に、主として生徒と直接向きあう教員などに向け、指導の重点を示しています。昨年までは縦に並べていたデザインを、左から指導の重点目標、現状と課題、そして取組と、流れが分かりやすくなるように左から右へと変更しました。関連性の深いものを同系色のもので並べております。次に、『確かな学力の育成』『豊かな人間性の育成』『たくましい心身の育成』は平成21年に出しました指導方針の指導の柱にある三つの視点です。これを目標に示し、それぞれの指導の重点を示しております。そして、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各校種別のより詳しい目標を示しました。原則的に各校種ごとに内容を検討し、一文に書き改めております。また、学力や学習意欲に関すること、規範意識に関すること、体力に関することについての各種調査から明らかになってまいりました子どもの現状のデータをグラフに示しました。グラフのデータは最新のものをを用いております。体力に関するグラフでは、全国データとの関連を示すという意味から今年度実施されました全国調査の結果の体力合計点に変更しております。今年度の主な取組については、平成26年度の園・学校での具体的な取組、それを支援する県教育委員会の取組を記載しました。確かな学力の育成を目指す『まなび一奈良』、豊かな人間性の育成を目指す『地域ぐるみで取り組む小・中・高校生規範意識醸成事業』、たくましい心身の育成を目指す『体力向上ホップ・ステップ・ジャンプ事業』の新規事業につきましては、取組内容の説明を記載しました。また、特に取り上げるべき教育課題について、クローズアップという欄を設けて説明を記載しております。キャリア教育の充実、道徳教育の充実、食育の充実です。クローズアップで取り上げる教育課題は、知・徳・体の育成と関わりが深い内容です。さらに、学校全体の経営に関する内容を記載しております。管理職を中心として先生方が『魅力と活力ある園・学校づくり』のために取り組むべき内容を記載しております。特色ある教育活動の展開、教職員の資質の向上、家庭・地域との連携・協働の三つを示しております。また、これらに関わって特に重視するべき教育課題をここでもクローズアップとして示させていただきます。特別支援教育、安全教育の充実に加えて、新たにいじめの防止、体罰の根絶、人権教育の充実を追加しております。教育長メッセージは、リーフレットの作成趣旨を示したものとなっております。最後に、先生方を支援するウェブサイトに記載しております。教育委員会では、先生方</p>	

議案及び議事内容

の教育活動を応援するため、役立つ情報を共有する各種のウェブサイトを開設しております。教育委員会のリンク集や各種データ、教職員の服務に関する情報、週報などを掲載しております『奈良県先生応援サイト』、授業づくりに関する情報を提供する『なら“先生の蔵”』、生涯教育や社会教育を提供する『なら・まなびネット』、全国学力・学習状況調査に関連する練習問題などを提供するために新たに開設しました『まなび-奈良』があります。内容は以上でございますが、市町村教育委員会、公立の幼・小・中・高・特別支援学校の全ての教職員、講師を含む職員、PTAの方にも配布する予定をしております。内容の周知につきましては、各校種ごとに説明を行う予定です。県立学校では2月12日に開かれる教頭会で、小学校・中学校では2月の校長会で説明させていただきます。幼稚園でも校長会および市町村教育委員会の方から説明をしていただくことになっております。各学校管理職の方から校内研修で全先生方に内容の周知を図っていただきたいと思っております。」

○花山院委員長「ただいまの件につきまして、ご意見ご質問はございませんか。」

○森本委員「キャリア教育は言われだして久しく、他府県でもインターンシップ等を含めてキャリア教育に取り組まれている現状だと思います。特に社会的自立、職業的自立ということが大変重要となってきております。データ的に見ますと、特にニートやフリーターなどの話が一時騒がれたときに、職場体験などのキャリア教育をしている県についてはそういう数値が大変低かったのです。そのようなデータからも、キャリア教育に重点をおくのは大変いいことだと思っております。小・中・高のそれぞれについて、具体的に指導する案があれば教えてください。」

○学校教育課長「キャリア教育の充実ということで、各発達段階に応じた体験的な活動にこれまで取り組んでおります。小学校でしたら低学年では町探検・校区探検、中学年あたりでは職場見学、さらには職業人の方からお話を聞くなどの学習を行っております。中学校では、職場体験に行く前に手紙を書いてアポを取るとか、キャリアセミナーに参加するとか、社会的な自立に向けた準備を整えるという段階の活動をしております。高校では、社会的自立を控え、目標に向けて、力を具体的につけるための活動ということで、特にインターンシップを職業科高校だけでなく普通科高校でも多く取り入れる取組を進めております。また、キャリアセミナーとして職業人の方に講演いただいたり、ボランティア体験を通じて社会貢献の意識を醸成する取組なども進めております。」

○森本委員「県下の小・中・高の中でシリーズ的にそういうものを積み上げていくことを含めて、ご指導いただければと思います。」

○教育長「中学校は地元の商店などに自分たちでアポをとって2週間ほど行きます。中2では全員行っているというイメージでいいと思います。」

○森本委員「是非とも充実をお願いします。」

○松村委員「食育の充実について、学校では食育は先生が指導を行うと思いますが、家庭や地域では具体的にどのような連携をされるのですか。」

○保健体育課長「小・中学校での食育は、給食が生きた教材として、給食実施校では盛んになっています。課題としては、中学で給食が未実施のところがあること、また高校での食育を今後どうしていくのかということです。家庭での食育は地域や家庭と連携した形で展開していくことが重要で、たとえば、朝食欠食が多い家庭において、子どもが自分で朝の食事をバランスよく取る力を身に付けさせていくために、家庭に朝食レシピを配布する取組を行っています。」

○松村委員「他府県では、自分でお弁当を作って持ってこようという取組が行われているように聞いています。そのような取組はいいと思います。」

議 案 及 び 議 事 内 容

○保健体育課長「平成25年度に食育の研修会を小・中・高の教員等を対象に実施いたしました。校長を退職され、『弁当の日提唱者』という肩書きをもつ竹下和男氏を講師として、弁当の大切さについて、弁当を親が作ることでその気持ちが子どもに通じることについて、そして、週に1回は弁当の日を取り入れようなどの内容の講義をいただきました。現在はそれぞれ学校に持ち帰り検討している状況です。」

○藤井委員「奈良県の先生方が教育のことを勉強する機会はどのようにとっているのですか。他府県での研修や集団の中で肌で感じてくる研修などどうされていますか。他の進んだ県に行く研修はありますか。」

○学校教育課長「教諭が直接他府県に出向く場面は多くないですが、指導主事が年に何回か全国レベルの研修会に出席しています。その研修会の中でお互いに情報交換を行い、情報を持ち帰って教科や分野ごとに県での研修会を行っています。その中で各先生方に進んだ取組、模範的な取組を伝え、学校で具体的に反映していただくようにしております。」

○教職員課長「人事交流で和歌山や三重、さらに奈良女子大・教育大・私学との間で、互いに先生が入れ替わり、2年から3年間、交流先の学校へ行っています。こういった形で、進んだところや違った文化を直接学んでくる機会を確保しています。」

○松村委員「教科教育学会などいろいろな学会がありまして、個人的に参加をしておられる方がいます。外で研究発表をしたり、いろんな意見交換をしたりというような取り組みがあります。公的なものではないかもしれませんが、出張扱いにして研究会や学会へ行くというのはいいのではないのでしょうか。」

○藤井委員「大事だと思います。」

○佐藤委員「運動場芝生化は全学校へ普及する計画ですか。」

○保健体育課長「これまで、小・中・高合わせて20校の芝生化を行いました。現在は、芝生化した20校の取組や維持管理の方法等を各市町村に紹介することで、今後の芝生化を推進していきます。」

○佐藤委員「食育ですが、家庭にPRなどする動きはないのでしょうか。」

○保健体育課長「PRにつきましては、食育推進担当者を各学校で決め、その先生方を中心とし、育友会の総会や保護者会などの際に講演会を開催したり、食育関連のプリント類を配布したりして、家庭での食育推進に努めてもらっているところです。」

○佐藤委員「道徳教育の充実のために、具体的にはどんなことをしようとしておられますか。」

○学校教育課長「道徳教育につきましては、教科化という動きがございます。来年度『心のノート』が改訂される国の動きと相まって、県では道徳教育の読み物資料として郷土資料を作成しています。郷土資料とは、主に郷土に関する伝統・文化等を取り上げております。いろんな道徳教育の内容について郷土を題材にしたお話を作成し、読み物資料を充実させていきたいと思えます。また、それを周知するための研修会を行う方向で進めていきたいと思っております。」

○佐藤委員「これは、高校にもつながっていくのですね。奈良TIMEでは、歴史や文化財のことなどいろいろ勉強できるので良いと思えます。」

議案及び議事内容

○教育長「高校では伝統文化と地域を学習してもらいます。アイデンティティーをつくらうためには自分の地元の話ができることが大事かと思えます。道徳資料は小・中用がありまして、地域の題材を使いながら、動物の命の大切さを説くなどした内容のものです。命の大切さからアプローチしていく形で進めていきたいと考えています。」

○佐藤委員「道徳を日常の規範という風にとらえている人が多いですが、道徳は人間の生きていく道を説いているものであると思えます。人によりとらえ方が違いますが、そのあたりから進めていけばよいと思えます。」

○教育長「道徳は、自分がどう生きていくのかを考えるのが一番だろうと思えます。規範をいうのではなく、命の大切さ、命とは何かということから入った方が特に小さい子どもにはいいと思えます。ですから、アニマルパークで行っている命の教育などが中心になってくると思えます。」

○藤井委員「ICTの関係も若干盛り込んだ方がよかったのではないかとと思えます。」

○学校教育課長「ICTを活用してというのは、それぞれの目標に向かって取り組んでいくための手段です。具体的にこの内容について説明する際に、ご指摘いただいた内容を説明に加えていきたいと思えます。」

○花山院委員長「日本の食生活の基盤を担ってきた米を食べる機会が減ってきています。経費のことや手間のこと、給食を一括で作っていることなど、いろいろなことあると思えますが、学校給食の中で米を食べる機会を増やしていくことができないでしょうか。また、小学校で言いますと、校区の中で作ったお米を子どもたちが食べたり、誰が作ったお米なのか生産者の顔が分かるようするなどできれば、地域の誇りや郷土愛が生まれるきっかけになると思えます。これは本当に難しいことだと思えますが、理想が掲げられ少しでも進んでいけばいいと思えます。日本全国でそういうことが行われていけばいいと思えます。」

もう一つこの冊子について、中高一貫校の設立が大きな目玉の一つですので、一貫校における目的・意味なども記載していけば広報の一介にもなるのではないかとと思えます。また、地域によっては、小学校・中学校が1校しかなく小・中一貫的なことを行っている学校もあると思えます。そのような連携をしている学校の長所も記載されていけばいいと思えます。学校教育の現場に立つ人や地域に愛情がないと全く成長しません。地域の愛情をずっと出し続けることが理解につながると思えます。」

○教育長「食育では米を食べる日は決まっています。米はブレンド米で、給食会を通じてですと安く買えますので、給食費のこともあり、そこから購入しています。地場産品については、奈良県は文科省から褒められており、給食では22品くらい使っています。」

○花山院委員長「米を食べないで成長する子どもが全くいないとも限りませんので、学校でしっかり米を提供していけるよう、将来何かできればよいと思えます。奈良県では地場産品を使っているとのことですが、子どもたちはどこで採れたものなのか知っているのですか。」

○教育長「奈良県では栄養教諭を採用しています。給食が始まる前に、栄養教諭が教室の前でその日に使われている地場産品について少し説明を行います。実際に学校へ行き見てきましたが、確実に行われています。70時間は食育をやってほしいということで栄養教諭を採用した経緯がありますので、ほかの府県よりは食育のための時間を取っていると自負しています。」

○花山院委員長「子どもたちに生産者の顔が見えたり、生産者が学校に来て話をするなどの機会があればいいと思えます。人と人のつながりから得た知識は残りやすいと思えます。」

○松村委員「自校方式だと校区内のものを使うことは可能ではないですか。」

議案及び議事内容

○教育長「地場産品を使つての取組は、給食会が文科省から予算をもらい研究して作ったものを配っております。それを市町村は買っていますので、自校方式であってもセンター方式であっても地場産品は使っております。」

○松村委員「生産者の顔が見えるという点では自校方式の方がいいかもしれないですね。」

○教育長「野菜は地元の八百屋さんで買ったり、中央市場で買ったりしていますが、実際の農家から直接買い、どの方から購入したのかを分かるようにするというのは難しい点があります。食数が多いと一定量がいるということもございます。」

○花山院委員長「ご意見がないようですので、承認してよろしいか。」

※ 各委員一致で承認

○花山院委員長「報告事項1については承認いたします。」

その他報告事項

○花山院委員長「この他に報告・連絡事項等はございませんか。」

○教育長「その他報告事項が7件ございます。学校教育課長から1件、生徒指導支援室長から3件、人権・地域教育課課長補佐から2件、文化財保存課長から1件を、続けて報告いたします。」

1 平成25年度「奈良TIME」学習研究発表会について

○学校教育課長「今年度から県立高校に入学する全ての生徒を対象に、郷土奈良の伝統、文化、自然等に関する新しい学習『奈良TIME』を実施しています。1月24日に第1回目の『奈良TIME』学習発表会を開催しました。富岡教育長、松村委員、森本委員にもお越しいただきました。各高等学校管理職、奈良TIMEの担当者100名、発表に関わる生徒67名の参加がありました。発表は、研究発表Ⅰと研究発表Ⅱに分かれ、研究発表Ⅰについては、今年度、『奈良TIME』の授業を実施した学校から、県立登美ヶ丘高等学校、県立橿原高等学校、県立吉野高等学校の3校が研究発表をしました。登美ヶ丘高校はキャリア教育の全体計画と連動させ、近隣六つの大学の先生方の協力を得ながら取り組んだ奈良の観光学、奈良の経済学等の発表でした。橿原高校は大きなテーマとして近隣の飛鳥地域を取り上げ、現地見学から歴史的遺産の価値や魅力を総合的に学んだことの発表でした。また、いかに発信するのか、発信する力の育成もテーマとしています。吉野高校は吉野の森林の今後の活用について学び、実際に演習林で体験学習をしたことについての発表でした。研究発表Ⅱについては、『奈良TIME』の実施に先立ち、郷土の伝統、文化・自然等について探求的な学習に取り組んできた、県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校の2校の代表生徒が研究発表をしました。西の京高校は学校周辺の観光マップを作成した実践発表、法隆寺国際高校は日本の文化の一つである佐渡の歴史と奈良の歴史を関連づけた発表でした。どの発表も創意工夫がありました。今後、県で作成した指導資料を幅広く活用していただけるようにしていきたいです。発表後は橿原考古学研究所学芸課長から『今に生きる古代の道』という演題の講演をいただきました。」

2 「奈良県いじめ防止基本方針検討協議会」の開催について

○生徒指導支援室長「このことは、昨年9月28日に施行となりました『いじめ防止対策推進法』に規定されています県の基本方針の策定について、私立学校も含めた県全体の方針として策定す

議案及び議事内容

るため、知事部局地域振興部教育振興課と教育委員会が協働して、有識者・関係団体の代表の方々を委員とした協議会をもちました。去る1月16日に第1回目の会議が開催されました。座長には、日本生徒指導学会会長・大阪市立大学名誉教授で国の基本方針策定の座長も務められた森田洋司先生にお就きいただきました。今回の会議では、いじめ防止対策推進法及び国の基本方針、本県のいじめの状況についての説明があり、委員の方からは『子どもたちの生き抜く力を育む必要性を感じる』や『学校、保護者はもとより県民総がかりで取り組むことが重要だ』といったご意見をいただきました。現在、地域振興部教育振興課で各委員からの意見をとりまとめています。今後、回を重ね各委員からご意見をいただきながら進める予定で取り組んで参ります。

今回策定します基本方針については、国及び学校に策定義務、県など地方公共団体には努力義務とされています。また、国の基本方針の概要では、地方公共団体が実施すべき施策として位置付けられているものがございます。」

3 第1回奈良県生徒会サミットの開催について

○生徒指導支援室長「明日31日の午後、県立教育研究所にて開催いたします。県内国公私立の高等学校・中等教育学校、特別支援学校の代表生徒により平成23年度に設けました奈良県高等学校生徒会連絡会が『生徒会サミット』と銘打って、今年度『中高生元気発信プロジェクト事業』として行った取組で、八つの高校の生徒会や地元中学校の生徒会が、地域のボランティア活動や地域行事等に協働して取り組んだことを発表します。また、高校生による災害ボランティアとして行った『十津川道普請』の参加生徒からの活動報告や、顕著な生徒会活動を行った高校を優秀校として表彰し、その受賞校からの発表をもとに、意見交流を行います。また、来年度の活動についても協議する予定です。」

4 「第15回小・中・高校生の未来を考える集会」の開催について

○生徒指導支援室長「2月1日土曜日の午後に教育研究所においてこの集会を開催いたします。この集会の主催は奈良県児童生徒の規範意識向上推進連絡会で、この組織は平成24年9月に発足いたしました。生徒指導担当教員で組織しています小学校生徒指導研究会、中学校生徒指導研究会、高等学校の生徒指導研究協議会の三つの生徒指導を担当する教員で構成している連絡会です。この連絡会が中心となって奈良県、県教委、県警察が連携をし、小・中・高の教職員、保護者、関係機関の方々が集まり、『いのちを輝かそう～正しいこと、大切なことを考えよう～』をテーマに、生徒指導上の諸問題を共通理解するとともに、児童・生徒の健全育成のために開催するものです。この集会では、集会のテーマを啓発するために、県内の小・中・高校生から啓発標語とポスター原画を募集し、その入賞者の表彰を行います。また、今回は小学校の実践報告、県警少年サポートセンターによる寸劇、コーチングに関する講演が行われます。」

5 平成25年度「奈良県学校・地域パートナーシップ事業」研修会について

○人権・地域教育課課長補佐「平成25年12月24日、県立教育研究所におきまして研修会を開催しました。この研修会は、学校・地域パートナーシップ事業関係者が一堂に会し、本県が進めております学校コミュニティにつきまして、一層の理解を深めていただくとともに、新たなネットワークの構築のきっかけとするものです。当日は、当課からのプレゼンテーションの後、平成24年度地域教育力推進モデル校であります田原本町立北小学校から、『実践発表』として学校と地域が協働して進める具体的な取組例を発表いただきました。続いてのトークセッションでは、『地域コミュニティを切り拓くこれからのカタチ』をテーマとし、コーディネーターとして奈良県学校コミュニティ・アドバイザーの高木和久氏、オピニオンリーダーとして、奈良県学校コミュニティ・コーディネーターの元小学校長の明島祐見子氏、そして、地元大学として連携協力してお

議案及び議事内容

ります奈良教育大学の教育実践開発研究センター特任講師の立石麻衣子氏から、ご意見をいただきました。その後は、各地域・学校、校種別に分かれた情報交換を行いました。学校や各地域で実践している内容の情報交換や、取組を進めていく上での悩みや課題等についても活発に意見交流が行われました。計305名の参加を得ることができました。」

6 第1回つながろう！奈良県学校コミュニティの集いについて

○人権・地域教育課課長補佐「今回、初回となりました学校コミュニティの集いは、子どもたちが地域の方々から学んでいる伝統芸能や祭りなどを取り上げ、学校と地域が協働して子どもたちを育てている取組の実例を県内に広く紹介し、地域の教育力の向上を図る契機とするものであります。平成26年1月19日、奈良県産業会館で一般参加者を含め計580名の参加をいただきました。集いは、開会に先立ち、当課から『地域と共にある学校づくり』のプレゼンテーションを行い、オープニングとして、下市中学校コーラス部の合唱、続いて、当日の運営を担当しました県内高校生による家庭教育啓発チーム『きらら140』の活動が紹介されました。

第Ⅰ部では、富岡教育長の開会の挨拶、地元大和高田市教育長からの来賓挨拶の後、せんたくん『学校コミュニティ1日推進委員長』委嘱式が行われました。その後、県教育長から第1回となる『グッド・学校コミュニティ』奈良県教育委員会教育長賞が、大和高田市立菅原小学校、香芝市立二上小学校、下市町立下市小学校の3校に授与されました。表彰後に受賞校3校から取組の報告をいただきました。第Ⅱ部では、合同実践発表として、五つの地域から地域で語り継がれている獅子舞や太鼓踊りなどの伝統芸能や民話などの発表があり、主体的に活動する子どもたちの姿や健やかな成長を願う地域の方々の想いが会場の方々に伝わった発表となりました。エンディングでは、県立ジュニアオーケストラの子どもたちの演奏に合わせ、『きらら140』の高校生と会場の皆さんで、明日へつながる希望と題し、『上を向いて歩こう』を合唱しました。来場された方々から『地域ぐるみで子どもを育てられる姿を実際に見ることができてよかった。』『子どもたちや園児たちにとってすばらしい体験となり、子どもたちの成長が感じられた。』『地域をアピールすることができてありがたかった。』などの声をいただきました。」

7 橿原考古学研究所附属博物館展覧会の開催及び開催案内について

○文化財保存課長「まず、『美酒発掘』と題して、昨年10月5日から開催した秋季特別展は11月24日に終了し、7,601名の方々に入館いただくことができました。期間中に2回の研究講座及び展示解説と『美酒芳香～神事に香る奈良の酒～』と題したフォーラム、また、名古屋講演会を実施しました。連携イベントとして菩提山正暦寺の拝観、奈良まほろば館でのブリーフガイド、さらに3回の見どころ解説と酒蔵見学を行い、多数の参加をいただきました。

次に、特別陳列『東海地方からの新しい風～古墳出現期の東海系遺物～』を2月1日から開催します。纏向遺跡など県内で多く出土する東海地方の土器の展示や古墳出現期の交流について紹介します。3月16日までの会期中で、研究講座と列品解説の実施を予定しています。

また、特別陳列『高く大きい「出雲大社」展』を記紀万葉プロジェクト関連事業の中で『ゆかりの地』との連携事業の一環として開催を予定しています。会期は2月8日～3月23日までです。出雲大社で使われていた勝男木や古代出雲大社本殿復元模型等の展示を予定しており、『古事記』『日本書紀』にゆかりの深い出雲大社の歴史や『いま』を学ぶ趣旨です。会期中には研究講座の開催も予定しています。」

○花山院委員長「7件のその他報告事項がございましたが、ご質問等はございませんか。」

○森本委員「奈良TIMEの研究発表会に参加させていただきました。奈良における特別な研究

議 案 及 び 議 事 内 容

の部分もあり、大人が聞いていても参考になる中身があったと思います。うまく展開できればと感じました。また、多くの方が参加して場を盛り上げる、聞いていただける、といった仕組みづくりができればいいと感じました。」

○花山院委員長「いじめ防止基本法、小・中・高校生の未来を考える集会に関わる現状は難しいです。今のいじめのきっかけ・発展のツールになっているのは、インターネットによる相手への中傷誹謗だと思います。そのことによって人を集めて最終的にはいじめにつながったり、事件につながったりということが現実にあると思います。学校側で掲示板などを検索して削除する時代がありました。現在は非常にツールが増えたので対処がより難しいと思います。現状ではどういふことを対処方法としているのですか。」

○生徒指導支援室長「平成22年、23年に国の事業を使いまして学校裏サイトの検索にかかる研修を実施しました。その調査研究として行ったことをもとに冊子資料を作り、学校でもできる検索手法、未然の防止につながる情報モラルに関する指導資料を配布いたしました。現在はこの事業は行っていませんが、青少年生涯学習課が大学と連携した形で本年度ネットパトロールを実施しているところです。大学生が大学教授の指導の下で取り組んでおりますので検索結果は少ないです。いろいろな問題が起こっており、たとえばLINEですがネットパトロールでは検索は不可能です。誰でも見ることができるサイトであればパトロールができるのですが、限界があるのが実際です。その危険性を繰り返し資料提供したり、情報モラル教育の観点から指導を行っているところです。」

○花山院委員長「他にございませんか。」

○花山院委員長「本日の議案は全て終了いたしました。この他に報告、連絡事項等はありませんか。」

○吉田理事「今朝の新聞で報道されましたが、県立青翔中学校の出願状況を報告します。40人1クラスに90人が出願し2.25倍です。桜井市12名、葛城市11名、地元の御所市が10名、檀原市が10名、これで約半分です。あとは野迫川村、天川村、遠いところでは生駒市から1名出願されています。2月1日の土曜日に試験を行い、4日に合格者を決定したいと思っております。」

○花山院委員長「それではこれをもちまして、本日の委員会を終了します。」